

協定書に署名後、記念撮影する熊本ヴォルターズと本学の関係者



悲願のB1昇格 全力で応援

熊本ヴォルターズと包括連携協定

2部（B2）熊本ヴォルターズと本学が11日（火）、スポーツ医学によるチーム支援の充実やスポーツを支える人材育成などを目的とした包括連携協定を結びました。本学とスポーツチームとの包括連携協定は3件目で、プロチームとは初めての締結となります。

プロチームと初



協定書に署名する竹屋学長（左）と熊本バスケットボールの福田社長

本学アリーナで行われた締結式には、関係者計12人が出席。竹屋元裕学長が「選手たちの競技能力向上につながる一方で、本学にとっても学生たちが経験を積むことができるというメリットがあります。チームのB1昇格に少しでも役に立てればと思います」、ヴォルターズを運営する熊本バスケットボールの福田拓哉社長が「（協定は）チームにとってかなりの追い風になるものと期待しています。全国でも数少ない取り組みだけに、熊本から成功事例として発信していきたい」とあいさつ。チームのマスコットキャラクター・ぼるたんに見守られ、それぞれ協定書に署名しました。

協定により、本学ではチームリーダーの本田啓太講師（リハビリテーション学科理学療法専攻）を中心に、プレシーズンの7月、リーグ開幕直前の9月、シーズン中盤の1月の年3回、

選手の身体機能・体力測定や分析を行い、競技パフォーマンスに影響する因子の解明などに取り組み、チーム力の向上を後押しします。

また、人材育成の面からもスポーツリハビリテーションコースを中心とした学生らの実践の場と位置づけ、将来的には理学療法士とスポーツトレーナーのダブルライセンスを持つ同コース卒業生によるチームサポートなども構想されています。

昨季チーム創設10周年を迎えたヴォルターズは、リーグ戦成績35勝25敗で西地区3位となり、B1昇格プレーオフに進出しました。しかし、プレーオフ1回戦で長崎に連敗し、悲願達成はなりませんでした。

今季リーグは10月に開幕し、約8カ月にわたり熱戦が繰り広げられます。（NL編集部）

ひねり効かせ「禁煙川柳」 優秀3作品表彰

世界禁煙デー（5月31日）と禁煙週間（5月31日～6月6日）に合わせて実施した「禁煙」川柳大会の表彰式が6日（木）、応接室で行われ、学長賞に輝いた後藤菜々子さん（医学検査学科1年）、学生委員長賞の河瀬晴夫事務局長、事務局長賞の岩原光成さん（医学検査学科2年）の3人が表彰を受けました。

大会には学生、教職員から計66句の応募がありました。いずれもひねりの効いた力作がそろい、選考にあたった竹屋元裕学長らを喜ばせていました。表彰式では、竹屋学長、申敏哲学生委員長、河瀬事務局長が、それぞれ各賞受賞者に表彰状とクオカードを手渡しました。

また、学生投票による人気作品も右記の通りです。

（事務局長付・猿樂南海）

学生、
教職員から
66句

受賞作品と人気投票作品

【学長賞】

吸った分 ちぢむタバコと 健康寿命
（くま太郎 / 医学検査学科1年 後藤 菜々子）

【学生委員長賞】

バレてるぞ! コソコソもくもく そのの君
（ちいかわ / 事務局長 河瀬 晴夫）

【事務局長賞】

一口で 心を奪う 思草
（こ / 医学検査学科2年 岩原 光成）

【学生投票】

- 1位) 吸いませぬ 今まで吸って すいませぬ
（ブリのテリヤキ/リハビリテーション学科
理学療法学専攻2年 嶋田 翔太）
- 2位) バレてるぞ! コソコソもくもく そのの君
（ちいかわ）
- 3位) Smoking 父が真顔で Warning??
（ゆくん/リハビリテーション学科
理学療法学専攻2年 水野 雄心）

第45回 日本血栓止血学会学術集会

登尾講師（医学検査科）に優秀ポスター賞

医学検査学科の登尾一平講師が、6月15日（木）～17日（土）に北九州国際会議場（福岡県）で開催された第45回日本血栓止血学会学術集会で優秀ポスター賞を受賞しました。

認定輸血検査技師である登尾講師は2018年に本学着任後、上妻行則准教授のもとで血小板に関する研究を開始。今回、「HepG2 細胞の増殖に脱シアル化血小板が関与する」というポスタータイトルで受賞しました。登尾講師によると、本学着任までは研究経験はほとんどなかったそうで、欧文誌の読み方や研究の進め方・考え方など全てが初めてで大変苦労したということです。現在は、本学での教育活動に加え、熊本大学の博士課程で研究を行っています。

登尾講師は「このような名誉ある賞をいただき大変光栄に思います。日頃からご指導くださる上妻准教授や川口（辰哉）教授をはじめ、多くの皆様に大変感謝しています。本研究が肝再

生メカニズム解明の一助となるよう、今後とも研究に邁進します」と熱く語っていました。（入試・広報課）



表彰状を手にする登尾講師（左）と
上妻准教授

日本一目指し 科学的トレーニング

熊本西高 女子柔道部 体幹強化やクールダウン法など指導

熊本西高校の女子柔道部員が7（金）、8日（土）、科学的トレーニング法などを学びました。この取り組みは3月に県高等学校体育学科・コース連絡協議会と締結した包括連携協定の一環です。同部は6月の県高校総体で団体5連覇を果たした強豪校です。8月のインターハイで日本一を目指します。

7日には部員15人が本学アリーナを訪問。松原誠仁副センター長の指導で下肢の筋力測定を行いました。8日（土）には、荒木理恵特任講師が同校柔道場に出向き、18人の部員を前にウォーミングアップや体幹トレーニング、クールダウンのやり方を指導しました。体幹トレーニングでは、「プランク」と呼ばれるトレーニング法の基礎や応用を指導。このほか、下腹筋の鍛え方やウォーミングアップ、クールダウンのやり方などを実演しながら手ほどきしました。

柔道部顧問の荒木伸知教諭は「早速日々のトレーニングに取り入れ、金鷲旗大会、インターハイ上位

を目指しながら3カ月ほど継続させ、またの測定の機会に成果を出すことができれば」と話していました。9月にはウエイトトレーニング指導のため、再び荒木特任講師が同校を訪れる予定です。（入試・広報課）



アリーナで下肢の筋力測定を行う熊本西高校の女子柔道部員たち

銀杏アラカルト

■ 児童の姿勢不良に警鐘

リハビリテーション学科の久保高明教授（理学療法学専攻）が10日（月）熊本市の桜木小で健康講話を行い、児童の姿勢不良に警鐘を鳴らしました。

5～6年生約150名と保護者のほか、他校の養護教員も参加。久保教授は、机に突っ伏す、頬肘をつくといった姿勢不良の原因として運動不足を指摘した上で、健康面への影響についても言及しました。講話を踏まえ、児童たちが改善への取り組みを話し合い、発表しました。

児童の間からは、「朝夕のホームルーム時に体操を行う」「クラスみんなで取り組みたい」といった意見が飛び出し、意識の高さを見せていました。（入試・広報課）



ステージ上の久保教授の指導で、姿勢をよくする体操をする児童たち

■卒業生も企業PR 医学検査学科3年次生を対象にした医療系企業講演会が6月30日（金）1303M講義室であり、株式会社エーピーアイコーポレーション、株式会社カynos、シスメックス株式会社の各担当者が、各社の会社概要や一日の働き方、求められる職種などについて講演しました。

特に、カynosとシスメックスは、本学の卒業生が演者として来学し、後輩たちを前に自分の学生時代の話なども披露。学生たちは各企業の話に熱心に耳を傾け、メモを取っていました。医学検査学科6期生の高木覚さん（シスメックス）は「これからのキャリアを考える上で、一つの参考になれば幸いです」と後輩たちに温かい眼差しを向けていました。（入試・広報課）



後輩たちを前に自身
が勤務する会社の概
要を説明する本学医
学検査学科のOB

■講話通じ安全意识高める 警察官による交通安全講話が6月28日（水）、50周年記念館であり、約200人の学生が参加しました。熊本北合志警察署交通第一課企画係の坂本正幸係長と荒牧めぐみ巡査が県内の交通事故死亡者数の推移や内訳、事故の形態などを事例も交え説明。荒牧巡査が交通事故で亡くなられた方の遺族の手紙を読み上げ、「時間と心にゆとりをもって安全運転を心がけてください」と呼びかけました。（入試・広報課）

週間行事予定（7月15日～21日）

7 / 16（日）

7月期オープンキャンパス

◇訂正 7月7日配信の「週刊NEWSLETTER」201号の2面に掲載の寄稿「『第42回福見秀雄賞』を受賞して」の中で、本学の「福見秀雄賞」受賞者に第23回（2004年）の梅橋豊藏先生を追加します。今回の南部雅美教授の受賞で、同賞の本学受賞者は4人目となります。また、同賞を含め黒住医学振興財団による顕彰事業において表彰を受けた本学関係者は6人になりました。